

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

♪ジョイコン NEWS ♪

第56号 (2022年10月)

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

9月の第58回コンサート「出演：小暮浩史(ギター)」は、客席前方(土間)に“仮設ステージ”を設置して実施しました。

ギターの生演奏を身近で聴いて欲しいという小暮さんのご希望もあり、マイク使用は曲目等の解説(MC)用のみで、演奏ではマイクを通さず”いわゆるPA(Public Address)なし”での演奏でした。

“仮設ステージ”設置はジョイコンとしても初めてで、照明の課題などもありましたが、公会堂のご協力も得て無事終了することができました。

「当日の様子(写真)」は、Webサイト <https://www.ohkurayama-joycon.com/> のアーカイブ(過去のコンサート)でご覧いただけます。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」(第56号)をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】 次回コンサートのご案内
 - ◆ 第59回コンサート
- 【2】 今後の予定(先取り情報)
 - ◆ 第60回コンサート
- 【3】 楽器よもやま話～サクソフォン
- 【4】 コンサートのアンケートから

【1】 次回コンサートのご案内(予約受付中)

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

◇ 2022年11月20日(日曜日) 14時開演

◇ 出演：都築 惇(サクソフォン)、AKI マツモト(ピアノ)

◇ プログラム(予定)

- ◆ E. ボザ：イタリア幻想曲
- ◆ O. メシアン：クロツグミ
- ◆ M. ラヴェル(D. ワルター編)：ソナチネ
- ◆ T. ケウリス：カンツォーネ
- ◆ F. デュクリュック：ソナタ

他

◇ 料金：大人・高校生 2,000円、中学生以下 1,000円

◇ 会場：横浜市港北公会堂(東急東横線 大倉山駅より徒歩7分)

第59回ジョイフルコンサートは

『都築 惇サクソフォン・リサイタル～2種のサクソフォンで描く美しき世界』と題して、お届けします。

都築 惇さんからメッセージが届いています

今回はサクソフォンが発展した地であるフランスの作品をメインに2種のサクソフォンを駆使して演奏して参ります。

前半はサクソフォン以外のために書かれた作品、一方後半はオリジナルの作品のみにフォーカスを当ててプログラミング致しました。

ピアノとサクソフォンで織りなす音の世界を是非お楽しみ下さい。(都築 惇)

第59回ジョイフルコンサートは管楽器のサクソフォンとピアノのコンサートです。

サクソフォンは私個人はブラスバンドのイメージが強いのですが、クラシック音楽は

どんな風に演奏されるのかとても楽しみです。

●0. メシアン/クロツグミ

☆0. メシアン

メシアンはフランスの現代音楽作曲家、オルガニスト、ピアニスト、音楽教育者です。神学者、鳥類学者としても研究を続け、世界中の鳥の声を採譜するということをしています。

NHK スペシャル「映像の世紀」の音楽を担当した加古隆、ピアニストの藤井一興など日本人学生にもメシアンは作曲を教えています。
藤井一興は師匠のメシアンの曲のCDも出しています。

22歳でパリのサントトリニテ教会のオルガニストに就任し、60年以上も務めました。その間に数多くの宗教音楽を作曲しています。

私が初めてメシアンという作曲家知ったのは、たまたまテレビで「幼子イエスに注ぐ20の眼差し」の抜粋の演奏を聴いたときです。
私が持つ宗教音楽のイメージとは全く違う激しい、不協和音の連続でびっくりしました。

メシアンの曲はテクニックも曲想も大変難曲であるため、最高峰のコンクールで演奏されることも多いです。

嬉しいことですがメシアンはとても親日家でした。
季節の移り変わりと共に変わる風景を愛で、お料理などにも季節感を感じさせるような文化が気に入ったのでしょうか？

1962年にピアニストの妻イヴォンヌ・ロリオと一緒に来日し、イヴォンヌはコンサートでメシアンの曲を演奏し、メシアンは講演会を行いました。

この際メシアン夫妻は日本各地を旅行し、特に軽井沢の鳥にはとても感銘を受けたそうです。
この日本旅行の印象を基にメシアンは「7つの俳諧」というアンサンブルの曲集を作りました。

この曲集のなかの「軽井沢の鳥たち」という曲を都内の公園で演奏して、鳥たちの反応を見る、という面白い実験をしている人がいます。
うぐいすが反応してくれたそうです。
鳥の大群はざわざわとしたとか。

おもしろいですね。

☆クロツグミ

メシアンは鳥を神聖なもの、優れた音楽家として尊敬していたそうです。
鳴き声は鳴いているのではなく、歌だと考えていました。
歌声の研究を重ね、50以上の鳥の声を聴き分けることができたと言われています。
更にその歌声を楽譜にしました。

「クロツグミ」も鳴き声を正に楽器で表現しています。

「クロツグミ」は1951年のパリ音楽院のフルートの卒業試験の課題曲として作られました。フルートの可能性を最大限に生かした曲だと評価されています。

聴いてみると、ずっと鳥が鳴いているようです。
鳥の鳴き声を西洋音楽の音階に当てはめるのはとても難しいのではないかと思います。

バードウォッチングに出かけてみたくなりました。
どうぞお楽しみになさってください。(A.N)

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）

★☆☆第60回コンサート☆☆★

◇2023年1月15日（日曜日）14時開演

◇出演：黒川 侑（ヴァイオリン）、日高志野（ピアノ）

◇プログラム（予定）

◆ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第2番

◆ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第3番

◆マスネ：タイスの瞑想曲

◆ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ第5番「春」

他

◇予約受付開始：2022年11月21日（月曜日）午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

【3】楽器よもやま話～サクソフォン

サクソフォンのように、口にくわえるマウスピースに付けたリードをふるわせて音を出す楽器をリード楽器と呼びます。

オーボエやクラリネットもリード楽器の仲間です。

また金属（主に真鍮）で作られていますが、「木」でできているか「管」状であるかには依存せずその発音原理から、クラリネットやフルートと同様に木管楽器に分類されています。

サクソフォンは、強弱の幅が木管楽器の中でもっとも広く、その音色は金管と木管のどちらとも良く溶け合い、響きを引き締め、うるおいと艶を与えるのに欠かせない存在となっています。

そのためジャズや吹奏楽、クラシックの世界でもソロ、室内楽、オーケストラなどで幅広く活躍している楽器です。

サクソフォンの歴史はほかの管楽器と比べて新しく、ベルギーに生まれた楽器製作者のアドルフ・サククス（1814～1894）が1840年代に考案（1846年にパリで特許も取得）したものです。

一般的にサククスと呼ばれることが多いサクソフォンですが、開発者のアドルフ・サククスに由来しています。

彼はこの楽器だけでオーケストラを作るという構想を持っていて、大小さまざまなサクソフォンを作ったといわれ、発明された当時のサクソフォンは14種類あったそうです。

しかし、現在残っているのは音域が高い（サイズが小さい）順に、ソプラニッシモ、ソプラニーノ、ソプラノ、アルト、テナー、バリトン、バス、コントラバス、サブコントラバスの9種類といわれています。

この中で一般的に使われるのはサクソフォン四重奏でお馴染みのソプラノ、アルト、テナー、バリトンの4種類です。

他の5種類サクソフォンは実際の使用頻度としては少なく、製品としても希少のようです。

さて、今度の都築さんのリサイタルは、“2種のサクソフォンで描く美しき世界”と題して開催されます。

どの種類のサクソフォンでどのように演奏されるのか楽しみですね。（でくのぼう）

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（9月18日公演）

『小暮浩史 ギター三百年の歴史をたどる～珠玉の名曲を解説とともに』は如何でしたか？

2回目の「Web アンケート」で数こそまだ少ないながら、演奏のご感想や運営について、さらに今後のご希望など貴重かつ熱心なコメントを頂きました。

今後の参考にさせて頂くとともにその一部をご紹介します。

アンケートでの質問「今回のコンサート内容はいかがでしたか？（５段階評価）」に対し、「大変良かった」側の「５」と「４」の回答のみで高評価でした。

自由記入欄の「演奏のご感想」では、
『３種類の楽器の弾き比べや、曲に関する歴史に関する知識が学べた充実したリサイタルでした』『曲目・３台のギターについて丁寧な解説が良かった。勿論演奏は、超一流』『ディアーズの曲が好きで今回聴きに行かせていただきました。fuoco がめっちゃくちゃカッコよかったです』など演奏の素晴らしさやトークの分かり易さなどのご感想が数多く寄せられました。

「運営について」では、
『ギターを生かした会場設定で聞きやすかった』『会場や椅子の並べ方も見やすく、とてもよかったと思います』『運営の皆さまは、コロナ対策、列誘導など、全てにおいて、とても感心しました』など好意的コメントを頂きました。
一方、『マイクを置く場所が、席によっては演奏家を隠してしまいます』『受付のリストを２つ同じ物で受け付けなければならないのではと思います』とのご指摘もありました。
今後の参考にしたいと思います。

さらに『この春、港北区に引っ越して来ました。クラシックの生演奏がお手ごろ価格で聴けることに感激しています』とのコメントもありました。
ぜひ今後もお来場頂きたいと思います。
アンケート回収数：13（回収率 11%）

※会場でのお客様の質問について；
「ギターの弦の長さ」は、通常スケールは 650mm、ショートスケールは 630mm です。

【編集後記】

人々を笑わせ、考えさせた業績に贈られる「イグ・ノーベル賞」の発表が先月 15 日（日本時間 16 日）にありました。
今年は「つまみを回すときの指の使い方を研究した」千葉工業大学の松崎元教授（デザイン学）らが「工学賞」に選ばれました。日本人の受賞は 16 年連続になるそうです。今回の研究は、「つまみの直径によって使う指の本数は変わるはず、それにより使いやすいデザインも違ってくるのでは」、と仮説を立て院生時代の 6 年間をかけて調べ、3 本の論文に纏めたそうです。
誰かを笑わせるつもりもなく、まじめに取り組んだだけに、「研究者としては複雑な気持ちです」とは受賞のご感想。
松崎さんの論文はウェブサイト <https://doi.org/10.11247/jssdj.45.69> で読めるそうです。（お）

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

- 次回予約申し込みはこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>
予約専用電話：080-8424-5108
- バックナンバー
メールマガジンのバックナンバー（PDF ファイル）はこちら
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>
- 配信停止／アドレス変更
メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら
<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会
Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>
携帯電話 080-8424-5108
URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>